

平成28年6月10日

関係各位

四国ファシリティマネジメント協会
会長 山下 幸男

ファシリティマネジメント講演会2016の開催について（ご案内）

平素は、四国ファシリティマネジメント協会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

ファシリティマネジメント（FM）は、企業や団体にとって施設の最適化や経営効率のアップ、省エネルギーなどの効果が期待できることから、厳しい財政状況にある地方自治体においても、地方創生の効果的な手法として注目され、高い関心を持って取り組まれつつあります。

香川県でも、平成28年4月に新たに「香川県新ファシリティマネジメント推進計画」を策定し、「ファシリティ情報の一元化」、「県有資産の効率的な運用や長寿命化」、「維持管理経費の縮減」、「未利用地の処分・利活用の推進」、「安全な県有建物の維持」の5本柱の取組みを推進しています。

この度、香川県との共催で、昨年引き続き県内自治体、民間企業の担当者の皆様を対象とした「ファシリティマネジメント講演会2016」を別紙のとおり開催しますので、ご出席方よろしくごお願い申し上げます。つきましては、出席者名簿を事務局までファクス（又はメール）にてご提出くださいますよう併せてお願いいたします。

問い合わせ先

オフィスサポートセンター内

四国ファシリティマネジメント協会

事務局 三好

電話 087-825-5522

FAX 087-825-5941

メール info@s-fma.jp

(別紙)

ファシリティマネジメント講演会2016

- 1 目的 ファシリティマネジメントの意義や具体的な取組みについて、理解を深める。
- 2 主催 香川県、四国ファシリティマネジメント協会
- 3 後援 日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）
- 4 日時 平成28年7月28日（木）14時～16時30分
（開場13時30分）
- 5 場所 香川県社会福祉総合センター 1階 コミュニティーホール
- 6 対象 県内自治体の施設管理担当者
県内民間企業の施設管理担当者 など
- 7 講演内容 ・「直島メソッドによる地域活性化への取組み」
（予定） 講師 公益財団法人福武財団 経営企画部 部長 塩田 基氏

・「市庁舎の移転と庁舎活用におけるFMの実践」
講師 富山県氷見市まちづくり推進部
都市計画・コミュニティデザイン応援課 主任 菊地 利仁氏

※講演の概要は別添のとおり

オフィスサポートセンター内
四国ファシリティマネジメント協会
事務局 三好 行

FAX 087-825-5941

FAXにて返信ください

ファシリティマネジメント講演会2016 出席者名簿

会社名 _____
担当者 _____
電話番号 _____

所属名	職名	氏名	備考

※希望者多数の場合、参加人数を調整させていただきますので、ご了承ください。

講演会の概要

■ 「直島メソッドによる地域活性化への取り組み」

講師 公益財団法人福武財団 経営企画部長 塩田 基氏

近年、多くの地域が過疎化・高齢化や環境破壊などの課題を抱え、政府による地方創生が重点施策として注目されている中、直島、犬島、豊島を中心とする瀬戸内の小島地域を活性化する「直島メソッド」と呼ばれる取り組みは、過疎や環境破壊などで傷ついた地域を、瀬戸内の自然や島々で営まれてきた「歴史」「生活」に焦点を当て、建築や現代アートを媒介とし、地域の魅力を最大限に引き出すことで、住民と一緒にやって地域を再生していく、先駆的なFMです。

地域と密接に結びつけた文化芸術運動と施設づくり、施設活用がされており、地域づくり、まちづくりのFMとして、担当者のFMに携わってきた知見も活かされ、財団の基金による安定的な経営基盤をもとに適切な運営を継続しています。

現在では、人口数千人の島々に年間約40万人以上が訪れ、国際的にも文化拠点としての知名度が高く、アートによる地域活性化は国内で高く評価されています。

本発表では、FMの視点からみた直島の地域再生について、ご紹介します。

■ 「市庁舎の移転と庁舎活用におけるFMの実践」

講師 富山県氷見市まちづくり推進部

都市計画・コミュニティデザイン応援課 主任 菊地 利仁氏

氷見市役所の本庁舎は、耐震診断調査結果や富山県が調査した津波シミュレーション結果から、整備・改修等に関して緊急に対策を講じる必要があると判断し、庁内での検討、関係団体や庁舎周辺自治会への意見聴取、市議会での検討などを行い、旧高等学校の体育館を市庁舎として改修し、再利用する案が決定しました。

全国的にも類を見ない、「体育館を改修して市庁舎として再利用する」という手法により、施設の有効活用が図られたほか、整備費用の大幅な低減が実現し、平成26年5月に改修工事の完了、新庁舎の開庁を迎えることができました。

新庁舎づくりの過程においては、新庁舎フロア等に、市民の意見・アイデアを取り入れるため、新庁舎のデザインに関するワークショップを9回開催し、そこで行われた市民との対話が随所で形となり、市民が利用しやすい空間整備が実現しました。

また、予てから、庁舎の分散や、本庁舎の駐車スペース不足が、利用者の利便性において問題視されていましたが、庁舎の移転改修により、これらについても解消が図られたほか、市民の利用が多い窓口をすべて1階フロアに配置（ワンフロアサービスの実現）するなど、利用者の利便性の向上が図られました。

本発表では、庁舎整備にかかる氷見市の具体的な取り組みについて、ご紹介します。